

新春

その『道』
jinsei

極める。

静岡県立浜松西高等学校 同窓会 2010年新春の集い

■日時:2010年1月2日(土) ■会場:グランドホテル浜松

主催:浜松西高等学校同窓会

運営:浜松西高第42回(平成2年)卒同窓会幹事会



我が母校浜松西高

静岡県立浜松西高等学校

応援歌

一、くろがねの男の子の腕かいで

揮ふるうべき時は来たりぬ

虹にじに似た我等が意気を

示しすべき時は来たりぬ

ハイザー西高 ハイザー西高

フレアー オー オー

二、いでやいで打ちてつくして

戴をかぶかん勝利かちの冠かんむり

いでやいで追おい斥はらけて

握にぎらんか覇は権けんの剣けん

ハイザー西高 ハイザー西高

フレアー オー オー

静岡県立浜松西高等学校

校歌

作詞 内野 徳治
作曲 県 善三郎

一、銀ぎんくもりなき大洋おほやや

東天とうてん耀かがやふ芙蓉ふよう峰ほう

天てん与よ普あまねき西山にしやまに

聳そびゆる麓ふもと巖いわしく

こもる力の偉いなるかな

二、真ま澄すめる空そらに讃ほめ歌うたの

声こゑ朗ほからかに打うちち揚あげて

清きよき尊たかき若わかき日ひの

誇ほこりゆたけく睦むつみゆく

心こゝろの光ひかり遠とほきかな



目次

ご挨拶

静岡県立浜松西高等学校同窓会会長	寺田一彦	2
静岡県立浜松西高等学校後援会会長	伊藤 孝	3
静岡県立浜松西高等学校校長	植松 豊	4
2010年新春の集い代表幹事(高42回卒)	安間隆弘	5

2010年新春の集い式次第	7
---------------	---

「道」企画～情熱対談～

「世界への挑戦」河合純一vs.溝口紀子	8
---------------------	---

祝還暦 高20回卒～当時をふりかえる～	12
---------------------	----

追悼 古橋廣之進さん(中18回卒)	14
-------------------	----

「道」STORY～それぞれの道～	16
------------------	----

増田篤志(高42回卒)	17
鈴木慎一(高50回卒)	18
廣川麻貴(高42回卒)	19
根岸雅樹(高46回卒)	20
近藤理江(高42回卒)	21

先生は今	22
------	----

部活の足跡	24
-------	----

親子三代 西山台で学ぶ	28
-------------	----

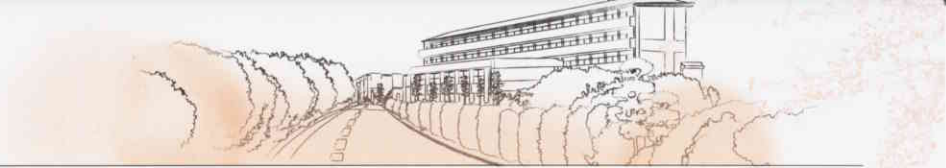
幹事会 一年の歩み	30
-----------	----

ご紹介～芸術家 大塚友美(高34回卒)	32
---------------------	----

協賛企業索引	33
--------	----

広告	40
----	----





ご挨拶



静岡県立浜松西高等学校
同窓会会長

寺田 一彦

新年明けましておめでとうございます。

本年も浜松西高恒例の「新春の集い」が御来賓並びに大勢の同窓生のご参加をいただき、盛大に開催できることを心より感謝申し上げます。

この「新春の集い」は同窓会の大きな行事になっており、今年の当番幹事は42回卒業の皆さんが担当されます。「新春 IPPON、ZEOI」をテーマとされていますが、テーマ同様、今の不景気をも投げ飛ばすような意気込みと勢いのある集いになるようにと準備を進めてこられました。これまでに費やした御苦労に対し厚くお礼を申し上げます。この会が一年の幕開けにふさわしい、有意義な集いとして楽しんでいただければと思います。

この「新春の集い」をとおり、多くの同窓生と杯を交わし親睦を深めていただくことで同窓会の結束力が強固なものとなる交流の場としていただきたいと思います。この結束力「西山魂」をここから発信していきましょう。

終わりに会員皆様のご活躍とご健勝ご多幸を祈念し、今後の同窓会へのさらなるご支援ご協力をお願い申し上げてご挨拶とさせていただきます。

ご挨拶



静岡県立浜松西高等学校
後援会会長
伊藤 孝

新年あけましておめでとうございます。

「新春の集い」が本年もまた盛大に開催され、同窓生の皆様がこうして一同に会することができましたこと、そして交流を深めていただくことができることを心からお慶び申し上げます。

昨年は、一昨年来の世界的経済の低迷から、地元浜松の経済も大きな打撃を受け同窓生の皆様におかれましても少なからず影響があったことと思います。こういう時だからこそ「西山魂」と「やらまいか精神」を胸に同窓生が一丸となって、この浜松地域の経済を盛り上げていくにはありませんか。今回の「新春の集い」が新しい始まり・新しい人間関係のきっかけ、手助けになったならばこれ以上にうれしいことはありません。

さて、こうして本年も新春の集いが無事に開催できましたことは、同窓生ならびに関係者の皆様の温かいご協力の賜物でございます。ここで改めてお礼と感謝の気持ちを申し上げますとともに、今後も引き続き、浜松西高後援会へのご指導、ご声援をいただけたらと思っております。

この西山台の伝統が、今後も引き継がれてゆくことを心より祈念いたしまして、年頭のごあいさつとさせていただきます。



ご挨拶



静岡県立浜松西高等学校
校長

植松 豊

新年あけましておめでとうございます。

今年も恒例の「新春の集い」がこのように盛大に開催され、同窓生の皆様が交流と絆を深められますことを心よりお慶び申し上げます。

同窓生の皆様には、日ごろより本校に対しまして深い御理解と物心両面からの御支援を賜り、厚くお礼申し上げます。特に本年度は、同窓会と後援会の御尽力で、普通教室全室に空調設備を設置していただくことになりました。近年、学校週5日制の影響や学力向上の観点から、1学期の終業式が遅くなるとともに夏休み中の補講も長期間行われるようになり、温暖化も進む中、空調設備の設置については生徒・教職員が切望しているところでありました。今年の夏からは快適な環境で授業を行うことができます。生徒・教職員一同、心より感謝申し上げます。

さて、本校は中高一貫校になってから8年が過ぎようとしています。生徒たちは、これまで同窓生の皆様が築いてこられた素晴らしい伝統を継承しながら、浜松西高・同中等部の新たなページを切り開いてくれています。進路面では、昨春、国立大学の医学部に9人、東京芸術大学に2人が合格するなど、多くの生徒が西山台の地で夢を育み進路希望を実現させています。

部活動においても本年度、高校では、陸上(男子1600mリレー、400mリレー、女子400mハードル)と女子テニス(シングルス)が全国高等学校総合体育大会に出場しました。中等部では、女子テニス部(団体戦、個人戦のダブルス)が全国中学生テニス選手権大会に、陸上部(女子100m、女子100mハードル)が全国中学校陸上選手権に、水泳部(女子50m自由形・100m自由形、女子400mメドレーリレー、女子400mリレー)が全国中学校水泳大会に出場しました。その他、高校でも中等部でも多くの部活動が県大会や東海大会に出場し上位入賞を果たす活躍を見せております。文化部も様々な場面で活発な活動をしておりませんが、中でも高校の吹奏楽部は第64回東海吹奏楽コンクール(B編成)に出場し、金賞1位・朝日新聞社賞を受賞する栄誉に輝きました。

今後も、中高一貫の特色を生かし、生徒一人ひとりが充実した学校生活を送るとともに高い志をもって本校を巣立っていくことができるよう、教職員一同全力で取り組んでまいりますので、これまでと同様、御理解と御支援を賜りますようお願いいたします。結びに、浜松西高等学校同窓会がますます発展されますよう、心よりお祈り申し上げます。

ご挨拶



安間隆弘

静岡県立浜松西高等学校
2010年新春の集い
代表幹事（高42回卒）

浜松西高同窓会会員に新しい年の幕開けを告げる「新春の集い」を、本年も開催できることに深く感謝いたします。同時に先輩方が築き上げてこられた伝統を守る事が出来たことを、嬉しく思います。

第2次ベビーブームの最中に生をうけ、激しい競争の中での大学進学時はバブル全盛期。さあ卒業だ、就職だというときには木っ端微塵。社会人になってからも旧来のシステムが変貌していく波に抗いながら進み続けた我々が迎えた高校卒業後20年、「新春の集い」当番幹事年。リーマンショックに端を発する世界同時不況ですか・・・もはや笑うしかないこの世代。

そんな不遇世代が作り上げた「新春の集い」。こんなご時勢ですからこそ、運営する我々も含め、参加していただいたすべての方に元気になっていただくこと、「新春IPPOH-ZEOI」。発しただけで何かが起こりそうなこのフレーズをタイトルに、「道」その道（道）極める」をテーマとして掲げました。

本日はそんなテーマにぴったりの我らが42回卒、バルセロナオリンピック女子柔道52キ級銀メダリスト溝口紀子とパラリンピックで数多くのメダルを獲得した河合純一さんとの「情熱対談〜世界への挑戦」や、これまた42回卒ジャズオルガニストとして活躍中である近藤理江率い

る「RIE Organ Trio」の演奏をご用意いたしました。道を極めた者たちの一挙手一投足が皆様の心に響けば幸いです。

また例年言われている若年層の参加を促すべく取り組みとして、史上初の2会場制を実施いたします。若い世代が気軽に「新春の集い」に触れられる環境を作ることに、来る当番幹事年への強い意識付けをしてもらおうという狙いです。実際我々も、昨年始めて参加したという者が多数を占めております。この流れを作ることに、一年の人数が大幅に減る中等部世代たちへの新しい「道」を作るきっかけとしたいのです。

今回の運営にあたり、ご協力を賜った同窓生の皆様、協賛企業の皆様には、なにかと至らぬ点がありましたことをこの場を借りてお詫び申し上げます。同時に百年に一度と言われるこの情勢下で、多大なるご支援・ご鞭撻を賜りましたことを御礼申し上げます。

そして、このような機会を与えていただいた浜松西高の伝統と、素晴らしい42回卒の仲間達へ「ありがとうございます」。

今後「新春の集い」が益々発展していくこと、一人でも多くの後輩たちが卒業後20年の年に新たな発見をし、新たな「道」を見つけ飛躍していくことを願いまして、挨拶とさせていただきます。

2010年新春、新年の幕開けとして、

また今年も西高同窓会を開けた事を皆様に感謝申し上げます。

何かと暗い話題の多いこのご時世、

そんな時代に鋭く切り込んでいくパワーを得ていただく願いをこめ、

「新春IPPON-ZEOI」をタイトルとして掲げました。

そして、追求していくテーマは「道」。

それぞれの人生という名の「道」が合流した西高での三年間。

お互い別々の「道」を歩んではいるけれど、今日ここで再会することにより、

また新たな「道」が明るく開けていくきっかけとなる場になれば幸いです。



2009年度新春の集い/古橋廣之進さん(故)

2010年新春の集い 『新春IPPON-ZEOI』 ～道～

主催／浜松西高等学校同窓会

運営／浜松西高第42回(平成二年)卒同窓会幹事会

浜松西高等学校同窓会ホームページ<http://www.hamanishi.org/>



2008年度新春の集い



2009年度新春の集い 2010年度に向けて挨拶

新たななる道を目指して

式次第

ニ〇一〇年一月二日(土)
会場 グランドホテル浜松

第一部 鶴の間
—
第二部 鳳の間

13時30分 受付開始

第一部 鶴の間

14時 情熱対談「世界への挑戦」河合純一×溝口紀子

第二部 鳳の間

15時～18時

オープニング～RIE Organ Trio

① 開会の辞

② 校歌斉唱

③ 祝辞

④ 表彰式

⑤ 鏡開き

⑥ 還暦者(高20回卒)の紹介と、代表者による鏡開き

⑦ 乾杯

⑧ 祝宴

⑨ 溝口紀子VS安間代表リベンジマッチ

⑩ お楽しみ抽選会

⑪ 安間代表幹事あいさつ

⑫ 応援歌斉唱・エール

⑬ 次年度幹事紹介・同窓会旗授与

⑭ 閉会の辞

⑮ 記念撮影

「道」企画 「道」企画～情熱対談 (第一部)

「世界への挑戦」

バルセロナ・アトランタ・シドニー
アテネ・北京パラリンピック水泳メダリスト

河合純一

VS. 溝口紀子

バルセロナオリンピック
女子柔道52kg級銀メダリスト





司会/河村由美(高44回卒)

※都合により進行順が変更になる場合があります

※ご来場いただいた皆様には、もれなく西高オリジナルエコバッグをプレゼント(裏表紙掲載)

「世界への挑戦」

バルセロナオリンピック女子柔道52kg級銀メダリスト

溝口紀子



たとえ困難でも、
勇気をもって行動すれば可能になる



1992年バルセロナ五輪



2001年フランスコーチ時代



2008年北京五輪にて63kg級谷本選手と



2008年北京五輪メダリストの集いにてカールスイスさん、
オーストラリア競泳メダリスト、田辺陽子さんを囲んで



2008年北京五輪メダリストの集いにて体操コマネチ選手と

溝口紀子 みぞぐちのりこ (静岡県磐田市出身)

1997年、埼玉大学大学院教育学研究科修士課程修了。1997年静岡県立大学短期大学部助手。2005年～2008年、静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科講師。2009年、静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科准教授。2009年東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻博士課程在学中。1992年バルセロナ五輪柔道52kg級銀メダリスト。2000～2001年まで文部科学省在外研修員としてフランスに留学。2002年から2004年文部大臣スポーツ功労賞、埼玉県民栄誉賞、福田町民栄誉賞、磐田市ふるさと文化大使、スポーツアドバイザー、アテネ五輪直後までフランス代表チームのコーチを務めた。講道館柔道四段。

Q4 子育てと仕事との両立は大変ですか？

母親と主人のバックアップがなければ不可能です。家族の支えのおかげで生活ができると毎日痛感しています。自分勝手な私ですが息子のおかげで、自分本位ではいけないことを毎日教えられています。とはいえ、授乳の合間に仕事、さらに寝不足で、1日をこなすのに本当に精一杯の毎日、余裕がないのが正直なところです。

Q5 今、スポーツを通じて取り組みたいことは何ですか？

スポーツは文化であると思うのです。そしてスポーツには、人類が生きるための工夫が集約されていると思うのです。文化人類学者のクラックホーンが、「文化は人間と個別に存在する力ではない。人間によって受け継がれる。」といっています。私がスポーツから学んだことを、地域の教育や社会支援に還元することで地域に活力を与えていきたいと思います。

Q1 柔道を始めたきっかけと、オリンピックを目指すようになったきっかけは？

小学校4年生(1980年)のときに、友人のすすめで福田柔道クラブに入門しました。オリンピックを目指すようになったのは、女子柔道が五輪の公式競技(1992年)になることが決定した小学校6年生のときでした。当時、「今から一生懸命取り組みれば、21歳のときに五輪に出場できるかもしれない」と具体的な目標を持つきっかけになりました。

Q2 オリンピックの舞台で、最も印象に残っていることは？

五輪決勝の緊張感、高揚感は人生で体験したことのない超人的な空間でした。試合は、地元選手との対戦で思うように試合が進まず、審判に抗議をしてしまいました。今思えば、抗議する以前にアウェイの戦い方を想定して試合を展開すべきでした。結果として、負けましたがその後の人生の中で「難題を冷静に分析し、自分を見失わないこと、決してあきらめないこと」が教訓になっています。

Q3 柔道を通じて、素敵な出会いはありましたか？

柔道は私にとって「社交の場」であり、柔道を通して日本だけでなく、世界中の人脈を広げることができ、柔道を通して出会った人たちに、これまで何度か窮地を救ってもらいました。その中でもフランスのナショナルチームのコーチとなって、フランス人と喜び、悲しみ、悔しさ、楽しさを分かち合えたことは自分の視野を大きく広げるきっかけになりました。

『道』企画 情熱対談

バルセロナ・アトランタ・シドニー・アテネ・北京パラリンピック水泳メダリスト

河合純一

VS.

ひとつのことを一生懸命に
取り組めば、
他のことにも道が開ける



河合純一 かわいじゅんいち (静岡県浜松市西区舞阪町出身)

日本代表競泳選手。バルセロナパラリンピック、銀2、銅3、アトランタパラリンピック金2、銀1、銅1、シドニーパラリンピック金2、銀3、アテネパラリンピック金1、銀2、銅2、北京パラリンピック銀1、銅1。1998年3月、早稲田大学教育学部教育学学科教育学専修卒業、1998年4月、舞阪町立舞阪中学校に社会科教師として着任、2003年4月、早稲田大学大学院教育学研究科学校教育専攻入学、現在、静岡県総合教育センター指導主事。

独占 インタビュー 河合純一氏

(日) 時 平成21年10月12日(月) 18時30分〜20時
(場) 所 喫茶レッドサン(浜松市西区舞阪町)にて
(ゲスト) 河合純一さん(純)、絵里子さん(絵)
(企画部) 大塚勇一(勇)、太田正義(正)、松下嘉一(嘉)



【勇・正・嘉】今日はお忙しい中、本当にありがとうございます。よろしくお願
いします。

【純・絵】よろしくお願います。

【勇】早速ですが、メダルを見せていた
だけですか? : やっぱり大きいです
ね!

【絵】主なものを持ってきました。これ
がアトランタ(1996年)で初めて
取った金メダルで、大学生の時です。教
師二年目の時はシドニー(2000年
でした。アテネ(2004年)の時は大
学院生でした。

【勇】これが北京(2008年)の銀メダ
ルですね。どのメダルも本当に輝いて
いますね!

【純】水泳を始めたきっかけは何でした
か?

【純】5歳のときに、浜名湾スイミング
クラブに通い始めました。友達もやっ
ているし、親も泳げた方がいじやな
い程度だったと思います。大会に出
場し始めたのは、小学3〜4年生ぐら
い。小学生の頃はまだ見えていました
が、中学生の頃から目が見えなくなっ
てきました。

【勇】目が見えなくなつて最も苦労した
ことは何ですか?

【純】水泳では真っ直ぐ泳げなかつた
り、ターンの時に壁にぶつかつてし
まったりしました。日常生活では教科
書の文字が読めなかつたことや、黒板
に書いてあることが分からないとい
うことがありましたね。

【勇】その後、水泳競技を続けながら教
員免許をとり、母校の舞阪中学校の教
壇に立つて多くの子どもたちを育てま
したよね。水泳と勉強の両立を实践さ
れた過程は、多くの人が知りたいとこ
ろですが、どのような心構えが大切か
教えていただけますか?

【純】ひとつのことを一生懸命に取り組
んでいけば、他のことにも道が開けて
くると思います。長くみれば、水泳をか
んばつた時期もあるし、勉強をかん
ばつた時期もあります。一日で考える
と、勉強をしている時間は限りなく
100%勉強をし、放課後になれば限
りなく100%練習に打ち込んでしま
した。気持ちの切り替えて、それぞれで
力を出せたと思います。

【勇】目の前にあることに全力投球ですね。

裏面へ
つづく



【純】そうですね。ただ、目の前のことだけに
取り組むというのは非常に盲目的なこと
で、将来こうなりたい、こういうことをする
ために今日の練習をしているのだ、という
明確な意図が理解できていければ、がんばれ
ると思います。

【勇】河合さんには、パラリンピック金メダ
リストという明確な目標があったかと思
います。パラリンピックとの初めての出会い
はどのような形でしたか？

【純】バルセロナ大会の一年前、高校一年生
の時に大会の存在を知り、まず出場を目指
すようになりまして。その時は、海外の大会
に出場できる喜びが一番でしたね。行って
みて初めて世界レベルの高さを実感し、そ
のことがその後の自分の人生に大きな影響
を与えたかと思っています。

【勇】バルセロナへは選手として出場しまし
たが、それまでに海外へ行ったことはあり
ましたか？

【純】初めてでした。約二十年前は、海外旅行
へしよつちゆう行くようになるとは思わな
かったです。インターネットも無ければ、携
帯電話も無い時代ですよ。

【絵】ご両親も、最初に最後とあって、お小遣

【純】僕が銀メダル2つと銅メダル3つを
とって、もう一人が銅メダル1個をとりま
した。

【勇】バルセロナの水泳といえば、岩崎恭子
さん(当時14歳)が200m平泳ぎで金メダ
ルをとりましたか。

【純】同じ「ピコルネプール」という屋外
プールでした。

【勇】ところで最近、東京オリンピック・パラ
リンピックの招致で落選したことはとても
残念な出来事でした。シンク口の小谷実可
子さんが、コペンハーゲンで泣いていまし
たね。

【純】僕は小谷さんの隣にいました。小谷さ
んは英語がペラペラですよ。海外でのうけ
が全然違いますね。

【勇】河合さんも英語話せますよね。

【純】僕はただ勢いだけです(笑)。

【勇】スポーツの良いところは、勝ち負けの
結果だけではなく、そこから広がる人間関
係だと思っています。スポーツを通じて、良い出
会いや人生のチャンスに恵まれます。今回
の招致活動では、鳩山総理大臣に会ったそ
うですが…

【純】本番直前10分ぐらい前に、会場へい
らっしゃいました。オバマ大統領もいまし
た。コペンハーゲンでは色々な方と会いま
したが、心からすごいなと思ったのは柔道
家の山下泰裕さんでした。

【勇】何がすごかったのですか？

【純】オーラが全然違います。森末慎二さん、
鈴木大地さん、高橋尚子さん、松木安太郎さ
ん、室伏広治さん、ほか多数いらつしやいま
したが、山下さんは別次元の世界でした。揺
るがない信念を持ちながらも温かさがあり
ますね。全然飾らないし、驕らないし、で
しゃばらない。男として格好良いと思いま
す。

【勇】ロサンゼルス決勝は感動的でした。
山下選手は右足に肉離れをおこしていて、
相手の選手がそこを攻めなかつた。結果、山
下選手が一本で金メダルを獲得しました。
【嘉】スポーツマンシップやフェアプレー精



政機関が発足
して、全国規
模の招致活動
が展開でき
ると良いです
ね。

【純】今回のコ
ペンハーゲン
では、文部科
学副大臣や国
会議員の橋本
聖子さんがい
らつしやつ
て、そのよう
な話をしきり
な話をしきり

にしてみました。現職の参議院議員には荻
原健司さんもいらつしやいますし、少しず
つ繋がりが広がっています。

【勇】河合さんはNPO法人浜松市障害者ス
ポーツ協会の立ち上げに関わつたり、講演
活動をされたりしていますが、将来、日本の
スポーツをこうしていきたい、といった思
いはありますか？

【純】大人がスポーツをする、見るといった
楽しさをもっと味わってもらいたいと思
います。あまりに仕事にゆとりが無過ぎ
ると思いますね。海外では、5時を過ぎれば
仕事を終えて、スポーツジムで汗を流し、一
杯やつて帰ろうといった雰囲気溢れてい
るのに比べて、日本では夜遅くまで残業し
て次の日も朝早く通勤するといった風潮で
す。スポーツを見るにしてもテレビで見
ることが多いですが、やはり生(ライブ)で見
る方が断然良いと思います。サッカースタ
ジアムで、ひいきのチームを応援するつて
楽しいですよ。

【勇】そうですね。スタジアムで点が入った
ときの雰囲気は、テレビの画面と音では味
わえない感動や臨場感、一体感があります。
【純】ライブを観戦することが、スポーツを
支えていくことに繋がっていくと思いま
す。スポーツ選手はもっと勉強しなくては
いけないと思いますし、変えていく要素は

ます。子どもたちにとって、スポーツを通じ
た国際交流は、きつと将来の大きな夢を育
むと思います。今後の日本スポーツのあり
方として「リーグ」をモデルケースとして学
ぶことが多いと思いますが、いかがです
か？

【純】その通りだと思います。学校教育との
兼ね合いもありますが、やりたい競技をど
こでも親しめる環境づくりをしたいと思
いますね。月謝が高くて、やりたい競技
ができないということがないような配慮も
必要だと思います。また、スポーツをやりた
がらない子には、体を動かす楽しさを感じ
てもらいたい。あと、日本以外の子どもたち
に目を向けることも大事だと思います。ア
ジアやアフリカの多くの子どもたちは、ま
ずボールが無いのです。日本の学校で要ら
なくなつたボールを、必要としている世界
の地域へ届けていく活動を様々な競技団体
がやっていますね。新しいボールを1000
個届ける方がずっと良いわけで、そのよう
な活動を大切に、その連携を深めていく
ことも大切です。

【勇】スポーツを通じて世界が一つになれ
ば、最高ですね。最後になりますが、奥様か
らご主人へメッセージはございますか？
【絵】全力で応援していますので…



大好評「えりぼう日記」

アクセスしてください。

<http://junswim.blog69.fc2.com/>

写真：ファンのメディア パラフォト

NPO 法人 国際障害者スポーツ写真連絡協議会

ホームページ：<http://www.paraphoto.org>

エラン・ヴィタルの時

浜松西高 42 回卒 溝口紀子

「年齢を3で割ると、今生きている人生の時刻がわかる。」これは30HR担任奥山先生が、たしか卒業近くに人生訓として教えてくれた言葉である。当時18歳だった私は「 $18 \div 3 = 6$ 、つまり人生の朝6時。目覚めの時期。人生の始まりはこれからなんだ。」と新しい門出に期待を膨らませていた。

あれから20年が経つ。私の人生の時刻はもうすぐ13時ということになる。現在、私は大学教員である一方で、週に一度、大学院(博士課程)に通っている。なぜ大学院をチャレンジしたかという以前から煮詰めていた研究構想があったからだが、大学の教育現場では、「教える」ことに追われ、加えて妊娠出産を機に子供中心の生活になり研究への思いは遠のいた。しかし、いくら努力しても思い通りにいかない育児を経験し、「子供の人生と自分の人生はまた別」ということを小さなわが子から学んだ。そして「子育てと自分がやりたいことを両立すること」が私なりの子育てと悟った。それは私の人生で天動説から地動説に代わるような出来事であった。その日を境に、希望する指導教官の所属する大学院受験のため子供が寝付いてから猛勉強をした。時には右手に子供を抱え授乳し左手で本を読むこともあった。しかしそれらはまったく苦痛ではなく、青春時代に味わった充実感、すなわち18歳の時に感じた目覚めの感覚に似ていた。

西高の劣等生であった私は20年を経て、「目覚め」の感覚が「エラン・ヴィタル(生命の躍動)」* であることを知った。高校時代は「学問」の楽しさに気がつかず、諸先生方にはご苦勞御心配をおかけしたことを心からお詫び申し上げたい。そして「新春の集い」では、世代の時空を超え同窓生の皆様と「エラン・ヴィタル」を語り、感じたいと思う。

*エラン・ヴィタル フランスの哲学者ベルクソンの言葉



いを持たせてくれたそうですよ。
【勇】初めての大会では、何か困ったことはありましたか？
【純】特になかったかと思えます。選手村ではサポートが十分でした。バルセロナの食べ物は美味しかったですよ。海産物が多かったですし、選手村の食事も良かったです。本場のパエリアも食べました。
【絵】バルセロナでは、水泳チームの結果はどうだったの？

神という意味で、相手の選手も大きく注目を浴びた試合でしたね。
【純】山下さんは、東京オリンピック・パリリンピックへの思いを強く持っていらつしやいました。「和の心」をどう伝えるか、戦争や宗教を超えて日本特有の和の心や調和といったものを如何に表現できるか、スポーツマンとして熱く思いを語っていました。
【勇】本道の柔道家ですよ。
【勇】いずれ日本にもスポーツ庁のような行

まだまだあります。スポーツは良いと感じている人は大勢いますが、どことなく低く見られていて文化に高められていない状況があります。そのようなことを打開できればと考えています。
【勇】私たちが住む地域には、サッカーのジュビロ磐田がありますね。Jリーグは、サッカーの水準向上だけでなく、ホームタウンへの貢献を通じて地域住民の健康増進を促したり、国際交流を推進したりしてい



記者会見でIOCへのプレゼンテーションスピーチを再現
パチフォト/稲垣大

【勇】その言葉が欲しかったです！これでインタビューを終わりにしたいと思っています。
【勇・正・嘉】長時間にわたり、本当にありがとうございました。

祝還暦

32HR

担任 尾藤 登 先生



月日の経つのは本当に早いもので、まさか自身が「還暦」を迎えることに大きな戸惑いを感じています。思い起こせば当時私は、現在の天竜区の中学校よりたった一人の入学生でしたが、三年の月日の中で多くの友人に巡り会え、又、担当の教諭の尾藤先生には二年間お世話になりました。特に二年、三年と共に過ごした友人が多く、個人的なメンバー揃いで、振り返ると本当に懐かしいものです。卒業後は次第に疎遠となりましたが、双子の愚息も母校でお世話になるといふご縁となりました。これからも益々の盛隆を期待しております。



鈴木鉄郎

31HR

担任 新村博保 先生



我がクラスは、当時の特殊クラスの隣の準特殊クラスで全員勉強に励んでいたクラスであった。このように勉強に励んでいたクラスであったにも拘らず9クラス中9位の成績であった。その反面遊びや部活にかけてはトップクラス。運動部に所属する者の中には全国で活躍する選手もいた。そんなクラスを受け持った先生は同窓会を行うたびに「楽しいクラスでやり易かった」ともおっしゃっていました。



伊藤誠一

34HR

担任 大槻高明 先生



まず担任の大槻先生の顔が浮かびます。私達が一年生の入学と同時に藤枝西高から赴任されました。出身の茨城弁が時折、ポロリと出て私達もつい真似をした覚えがあります。温厚で誠実な人柄でしたので、あまり怒った顔を見ることがありませんでした。また、地理の授業中やホームルームの時間に大学を苦勞して卒業された話をしてくださったことを懐かしく思い出します。さて、団塊の世代では普通であった54名の我がクラスの仲間達は多士済々の人間が集まっていました。その中でも、特に演劇部に所属して今やテレビ、舞台に活躍している斉藤君や当時エレキブームの波に乗ってバンドを結成し、テレビ番組の地方予選に出場した軽音楽部の井上、伊東、鈴木君は印象に残っています。血気盛んな時期の三年間は今から振り返っても忘れ難いものです。



早川正美

37HR

担任 岡田敬之助 先生



海軍大将・内閣総理大臣と文字違いのお名前でもあり、京大河、宮崎君等運動部員の多い、そしてまさに「Stand by me」(アメリカ映画)のようなクラスの担任と英語の担当と、先生もさぞや頭痛の毎日であったろうと思います。ある日のこと、誰が貼ったのか？黒板の真上に、アイドルスターの網タイツ姿の悩ましいポーズのポスターが！さぞや謹厳なキャラの持ち主、お咎めましがいなしと思いきや、意外！先生「君たちの気持ちも理解できない訳ではないが、もう少しの間ガマンしてくれ。」と言われた。まさに、話のわかる「兄貴」のような存在でありました。でもその連中たちもイッパシの社会人となり、還暦を迎える歳になりました。岡田先生ありがとうございました。



磯村恵三

今回は、当時のクラス担任の先生やクラス風景の思い出を振り返っていただきました。

高20回卒の皆さま、還暦おめでとうございませう。この度はご還暦を迎えられ誠にありがとうございます。これからの益々の活躍とご健勝を浜松西高同窓生一同よりお祈り申し上げます。





33HR

担任 松本迪夫 先生



「光陰矢の如く、学成り難し」
西山台を去ってから早や40教余
年が経ち、ふと卒業アルバムに目
を通すと、昨日の事のように思われ
胸が締めつけられる様な、甘酸っぱい青春の
最中でした。

さて、担任教師の松本迪夫先生の印象と言
えば、大変失礼と思いますがはっきりと覚え
ていません。是も無く、非も無く、落ちついた
性格ではなかったでしょうか。(バケ学の先
生故に瞬時に七変化は可能でしょうか。一
年生の時は未だ中学生気分が抜けず、二年
生になり、少し勉学に、スポーツに興味を持
ち学生生活をエンジョイできたが三年生に
なると進学、あるいは就職の事で自分自身に
余裕も無く、日々坦々と過ごしていたのでは
と思います。三年生の担任教師はこの様な多
感な時期を受け持つという点で、生徒には計
り知れない気苦労も多かったのではと推察
します。

高校生活の三年間は人生の中で心身を培う
最良の時期だったと思います。良き仲間、良き
先輩、そして良き恩師に恵まれ……。
我々は今年、還暦を迎えましたが、人生まだ
まだこれからです。西山台で育ん
だ「青春」という糧を胸に、今以
上に頑張っていきたいと思います。



新野謙二 (旧姓安川)

36HR 担任 上山一雄 先生



「どん百姓めー、脳ミソなし。豆腐の角に頭
ぶつけて死んじまへ。」
差別用語が生き生きと語られ、受け止めら
れていた時代だった。先生は、一歩踏み
込んで生徒に接し、生徒も物怖じ
することなく、先生に相対して
いた。

上山先生曰く「ぶつたるんど
る！そんなんじや、大学にやあ
受からん。わしらの頃にやあ、十二
時前には寝なかつたもんじや。ボンスケメー。
工場行って働け。」



伊藤悦男

35HR

担任 懸川高治 先生



35HRのクラスメイトは、ほ
んど25HRからの持ち上がり
でした。どちらかと言うと、真面
目でおとなしい感じのクラスで、羽
目はずしたり、リーダーシップを取る人はい
ないけど、ごちんまりとまとまっていた、居心
地が大変よかったです。では、懸川高治先生を
ご紹介いたします。二年生の時に藤枝東高から
赴任されてきました。教科は現代国語です。あ
の当時の先生のイメージは、白いワイシャツに
少しくたびれた上着を着ていた様に思い出さ
れますが、懸川先生はいつもアイロンのかかっ
たカラーシャツにおしゃれなジャケットを着
ていました。(奥様の趣味かな?)まず開口一番
の挨拶は、厳しいまなざしで「二年から受験勉
強をスタートしないと受験戦争に勝てない。」
が口ぐせのように叩き込まれました。そのかい
あって大半のクラスメイトが希望する大学に
合格できました。最後に懸川先生の
益々のご健勝と還暦を迎える35
HRのみなさんの第二の人生の
スタートに乾杯。



花崎幸夫

39HR 担任 永谷 一 先生



42年前の我が39組は、男子生
徒ばかり52人の大所帯。運動部
員も多く、食欲旺盛で血気盛んな
生徒と毎日付き合う担任の永谷一先
生、さぞ気苦労多く大変だったのだらうなと
拝察します。あの当時のクラスは、校歌の「讃
歌の声朗らかに打ち上げて」のとおり自由で
闊達そのもので、進学校にあつて進学校にあ
らず、バンカラの雰囲気にも満ちあふれていま
し。心配をお掛けした永谷先生の卒業
式における慈愛に満ちた眼差し
は、還暦を迎える年齢となつて
も、鮮明に覚えています。



石塚猛裕

38HR

担任 浦川末一 先生



第20回卒業、昭和42年、
早いもので42年前になるのである。我々のク
ラス担任は確か浦川先生でした。非常に温厚
な先生で、クラスのだれ一人として、怒られ
た記憶はないと思う。我がクラスは比較的好
となしく、その頃西高では、数少ない女子と
の共学でした。我がクラスの特徴はその中
で、「二組の夫婦が誕生したこと」です。その男
子の所属クラブは二人とも陸上部であつた
事です。

陸上部は、足も速いが手も早い。
アラカンをもかえて、これから第二の人生
有意義に過ごしていきたいと思う。

高校3年担任の浦川先生は、(他人に強い印
象を残さない)というのが特徴の先生。
眼鏡と白衣がトレードマーク。一見華奢に
見えた先生だったが、偶然に握手した機会
の予想外の肉厚な掌と握力に、人知れずの鍛錬
を想像した。高校初の授業で黒板に描いた円
が見事な真円で、先生の技量に甚だ感動した。
当時豊橋からの通勤は、厳しかったと思われ
る。また、怒った顔を人に見せたく
とのない温厚な先生だったと記
憶する。



大石 誠



土屋敏幸

追悼

2009年8月2日

世界に衝撃が走った。

スポーツの巨星落つ

古橋広之進さん死去



「国内外で要職務める」
古橋広之進さん死去
水泳界の巨星、古橋広之進氏が2日午後1時、東京都港区の自宅で死去した。享年82歳。死因は不明。古橋氏は、水泳界の巨星として知られ、国内外で要職務をこなしていた。

「なるまで泳げ」

古橋広之進さん死去



厳しい姿 印象的
関係者 突然の悲報に衝撃
古橋氏の死去は、関係者から大きな衝撃を与えている。古橋氏は、厳しい姿で知られ、選手たちに大きな影響を与えてきた。

世界記録 33度更新

「前へ」力強いストローク

引退後も世界で活躍
JOCや国際水連で重責
古橋氏は、引退後も水泳界で活躍し、JOCや国際水連で重責を担ってきた。その功績は、水泳界に深く刻み込まれている。

日本水泳界の巨星

古橋広之進氏死去



後輩育成 心血注
県内外から惜し
古橋氏は、後輩の育成に心血を注ぎ、県内外から多くの選手を育て上げた。その功績は、水泳界に深く刻み込まれている。

戦後復興期に勇気
「トビオ」を称賛
見習いの活躍に目撃
古橋氏は、戦後復興期に勇気を注ぎ、水泳界に貢献した。その功績は、水泳界に深く刻み込まれている。

力強いストローク
「魚になるまで泳げ」
古橋氏は、力強いストロークで知られ、選手たちに大きな影響を与えてきた。

五輪招致に影響
古橋氏は、五輪招致に影響を与えた。その功績は、水泳界に深く刻み込まれている。

水泳ニッポン象徴



中体体育職員呈
古橋氏は、中体体育職員に呈された。その功績は、水泳界に深く刻み込まれている。

古橋廣之進さん
たくさんの感動ありがとうございます。



古橋廣之進さんを語る—その偉業を偲びつつ—河合九平

昨年8月の同窓会報に、浜松西高85年の「校史上最大の快挙」として古橋先輩の文化勲章受章をお慶び申しあげたのに、今回「新春の集い」特集には追悼の念で、その偉業・遺訓を偲び語るとは誠に痛恨の極みである。

古橋さんとの出会いは、昭和17年・旧制浜二中水泳部の一年後輩として指導やお世話になってからで、六十余年の長きに亘った。当時は不運にも戦時中で僅か二年余の不本意な部活動でしたが、受けた刺激と思い出は強烈に残っている。特に「二中を選んだのが、生徒の勤労奉仕で作った短水路のプールだったから」と聞いてその逆境に挑む開拓者精神に驚いた。その後浜西高水泳部顧問の折には、合宿・インターハイで何かと指導・激励を受け、さらに校長の時は全校生徒に「スポーツと人生」をテーマにその貴重な体験を熱く語っていただくなど、母校や私は深い縁で大変お世話になった。

戦後未曾有の混乱・困苦欠乏の社会状況にも拘わらず、持ち前の「努力・我慢・克己」で世界新記録33回更新という前人未到の実績で『フジヤマのトビウオ』と世界的絶賛を浴び、敗戦後の日本人に生きる「希望」と復興の「勇気」を与えた空前絶後の精神的業績により、数々の表彰を受け、やがては「文化勲章受章」という最高の荣誉に輝き、国民的称賛を博されたことは、常にわれわれ同窓生の大きな喜びであり誇りであっただけに、「巨星墜つ」の悲報には耐えられない思いがした。9月半ば浜松市民葬が縁の「古橋廣之進記念・浜松市総合水泳場」で、しめやかな中にも荘厳に行われ私は依頼された弔辞に、古橋さんがいかに「郷土を愛し、後進の育成」に心血を注がれたかを述べ、「とびうお杯全国少年少女水泳大会」(24回)やルーツともいべき「古橋杯浜名湖少年少女水泳大会」で親しく子供たちを激励されたあのお姿を懐かしみながら哀惜の念に咽んだ。

「泳心一路」をはじめ「体が魚になるまで泳げ」「努力の前に壁はない」「逆境こそ進歩の母」など多くの教訓は、古橋さんがその80年を「生涯水泳人」として精魂込めて生き抜かれた「努力の結晶」で、万人が学ぶべき「生き方」の《不滅な教典》といえる。いつの時代・誰にとっても、その道(好きなこと)一筋に打ち込めば必ず自分なりのアイデンティティが得られることを古橋さんは身をもって実証してくれたからである。

西山台で「文武両道」をモットーに学んだ同窓生の皆さんには、古橋さんが自らのスポーツ人生・哲学を総括した「泳心一路」が、その見事な具現であることは容易にお分かりであろう。今や再び「身心一如」が見直され、識者によれば「感じて、思っ(考えて)、動く」のが学びのメカニズムであり、文武両道も文(心)と武(体)が同時に活動し合う「文武一体」といふべきだと指摘している。「体が魚になるまで泳ぐ」体の鍛錬が、ひたむきな心をも生むと「泳心一路」を考えるときその深さは測り知れない。

いずれにしても、文化とは広義に〈人間の生きざまとその足跡〉といえよう。古橋さんは水泳に命を懸けスポーツ文化を大成した。われわれも己がじし自分の仕事に懸命になり、各自の文化をそれなりに築こう。それが自己の幸せ・先輩への報恩ともなろう。

(旧中19回卒・浜松西高第12代校長・元浜松市教育長)



▲古橋氏 浜松西高水泳部員を激励 (昭和60年10月3日)



▲古橋氏と共に (館山寺/昭和63年9月8日)



▲「とびうお大橋」開通式 古橋氏と共に (平成16年3月30日)

ご略歴

生年月日	昭和3年9月16日	静岡県浜名郡雄踏町に生まれる
学歴	昭和16年3月	町立雄踏尋常高等小学校卒業
	昭和20年3月	静岡県立浜松第二中学校卒業
	昭和26年3月	日本大学法学部政治経済学科卒業
職歴	昭和26年4月～昭和41年3月	大同毛織株式会社
	昭和41年4月～昭和42年3月	日本大学専任講師
	昭和42年4月～昭和50年3月	日本大学助教授
	昭和50年4月～平成10年9月	日本大学教授
	平成10年9月～平成14年3月	日本大学非常勤講師
	平成10年11月～	日本大学名誉教授
主な大会競技歴	昭和21年8月	第1回国民体育大会・宝塚400m自由形 優勝
	昭和21年8月	琵琶湖横断遠泳大会 優勝
	昭和22年8月	日本水泳選手権400m(世界新)1500m自由形 いずれも優勝
	昭和22年9月	日本学生水泳選手権400m・800m自由形 いずれも優勝
	昭和23年8月	日本水泳選手権400m・1500m自由形 いずれも優勝・世界新
	昭和24年8月	全米水泳選手権400・800・1500・800mリレー いずれも優勝・世界新
	昭和25年7月	ブラジル国際水泳400・800・1500m自由形 いずれも優勝
	昭和25年8月	第3回日米対抗水泳200m(日本新)400・800m(世界新)いずれも優勝
	昭和27年7月	第15回オリンピック・ヘルシンキ大会 主将400m自由形 入賞
主な受賞歴	昭和39年10月	日本水泳連盟創立40周年記念功労者賞
	昭和42年12月	国際水泳殿堂入り
	昭和58年11月	紫綬褒章
	平成元年7月	国際水泳連盟(FINA)大賞
	平成5年11月	文化功労者顕彰
	平成5年11月	雄踏町名誉町民
	平成15年11月	旭日重光章
	平成19年10月	アジアオリンピック評議会(OCA)ゴールドピン ほか多数
	平成20年11月	文化勲章

道

MY WAY MY STORY

毎朝、出迎えてくれた「道」。
その「道」を登ったその場所で
僕らは青春を過ごした。
卒業してその「道」を
登ることはなくなっただけど、
まだなお続く「道」。
皆それぞれ行く「道」は違えど、
一緒に過ごしたあの思い出は
輝いたままだ……。

道 STORY

1 増田 篤志 (高42回卒)
Story 2 鈴木 慎一 (高50回卒)
Story 3 廣川 麻貴 (高42回卒)

4 根岸 雅樹 (高46回卒)
Story 5 近藤 理江 (高42回卒)



僕の生きる道

慌てなくたっていいんだよ。
ダブつてもいいんだよ。：（笑）

高42回卒

増田 篤志



増田 篤志(ますだ あつし) 浜松西高42回卒
1971年生まれ
1990年 浜松西高を4年で卒業
名城大学商学部経済学科並びに教職課程部を卒業後、
小笠高校教諭として5年間勤務
2001年大阪あべの辻調理師専門学校夜間部に通い、
2003年カフェデザイナーTROMBA(トロンバ)を開店
2006年有限会社MAS-Corporationとして法人化し、
現在は三方原と板屋町に2店舗経営、
来春4月に3号店新規出店を計画中

同窓生の皆さんへ

僕はつまづいたり、焦ったりしてる時に、よく自分に言い聞かすセリフがあります。
「慌てなくたっていいんだよ。ダブつてもいいんだよ。」って(笑)。
僕はダブった西高4年間を誇りに思っています。そして、皆さんに出会えて励まされたことにとても感謝しています。
西山台のオンボロ校舎と清々しい空気を思い出しながら、これからも「時を惜しみ青春を刻め」の精神で歩んでいきます。いつでもセンバツイってからかいに来てください。でわでわ

■大学

東京に行きたかったー明治に入りたかったー文系4学部全部落ちたー合格したのは母親が「あんな滑り止めよ。もうダブリはイヤよ。」って勝手に願書を出した名城大学のみ。並行履修で「教職課程部」があった。その文字を見て「やってみたいななんて思って履修した。結局採用試験は2度落第。諦めかけてた3度目に受かってしまった。教科は高校世界史。ちなみに同期に野球部マイティー井上がいる。彼とはなぜか教科も一緒に、採用試験も3回とも僕と同じ、受験番号も毎年前後だった。合格した年も同じで、きっと彼は僕の答案を覗き込んだに違いないと今でも僕は思っている。

■高校教員

晴れて高校教師となった僕は、得意のブラバンで人生のストレスを全て発散した。小笠農業高校から総合学科として新たにスタートした小笠高校の部員7名のブラスバンドクラブで。農場に座り込んで多くのことを語り、田んぼに向かって叫んだりもした。生徒に胸ぐらをつかまれた事もあり、女子に「3M(マジ ムカツク マスダ)」なんて言われた事もあった。でもめげ

ない自分がいたのは、やはり西高4年間の礎があったからなのかもしれない。
ちなみに小笠高校吹奏楽部は3年目にして東海大会出場。部員数は120名にもなり、全校生徒の6人に1人が吹奏楽部員という事態になってしまった。おかげで風当たりも強かった。でも、ブラバンを通じた生徒とのやりとりが本当に楽しくって、我を忘れて生徒達と泥まみれになって青春した。完全燃焼の20代だったが、転勤を感じた共になぜか退職。自分のスタイルに限界を感じていたのかもしれないし、父親が教員だったから、その後ろをついていくような人生がつまらないかもって、違うフィールドで勝負したいーなんて格好つけてたけど、今思えばちょっとカツコつけすぎたかな…

■それから

じっとしても仕方がないので、店を出すことを決意。根拠の無い自信と多大な不安を背に、大阪あべの辻調理師専門学校夜間部に。イタリアンに的を絞って、トラットリアとカフェで働きまくりの毎日。なにわの若者に励まされ「おっちゃんと呼ばれながらも、30歳の自分は新たな挑戦に生き生きとしていたような気がする。知

識や技術はもろろんだが、大阪時代のあの景色、雰囲気、人間模様、音、色全てが僕の心を刺激し、大きく揺らしまくった。
気合と根性で三方原に小さな店を出した。どこにあるのかわからない、なんて読むのかわからない、思った以上に美味しくない、写真と全然違うじゃないか、などなど多くのクレームを背に、自己反省しながらも今日まで続けられているのは、やはり西高時代の礎があったからなのかもしれない。

ということ、調子に乗って2号店を出してしまった。正直、返済が大変で号泣の日々。でも楽しい！スタップも増えて、それこそ教員時代の社会版みたいな感じで、愛情を注げば注ぐ程成長していく姿が嬉しくってたまらない。収支だけみると「あのままの方が…」なんて一瞬思うけど、それには代えられないおもしろさがある。苦しくも充実した自分スタイルの毎日を送っている。

これが僕の今日までの「道」のあらすじ。作文が苦手で上手くまとめられないのも昔と変わらない。



TROMBA店舗情報

■トロンバ板屋町店
浜松市中区板屋町626 2F
053-456-0125
営業時間 11:00~26:00
無休(指定休業日あり)

■トロンバ三方原店
浜松市北区三方原町3454-3
聖隷三方原病院前
053-439-0019
営業時間 11:00~24:00
定休日 毎週水曜日・第4木曜日

URL www.tromba.jp



道

毎朝、出迎えてくれた「道」。その「道」を登ったその場所で僕は青春を過ごした。卒業してその「道」を登ることはなくなったけど、またなお続く「道」。皆それぞれ行く「道」は違えど、一緒に過ごしたあの思い出は、輝いたままだ。

私の道はこれからも続いていく。
これから出会う多くの人や
経験によって切り開かれて…。

高50回卒

鈴木 慎一



鈴木 慎一(すずしんいち) 浜松西高50回卒
1979年生まれ
2004年日本獣医畜産大学獣医学部獣医学科卒
ハミング動物病院長

今年のテーマは「道」である。高校時代から現在に至るまでの「道」についてである。西高を卒業してからこれまでだが10年しか経ってないが、私にとつての10年は人生のちょうど3分の1に相当する十分な時間である。

高校時代は将来の夢に向かって、そのための通過点であると、ただなんとなく3年間を過ごしてしまつた気がする。年に何度かクラブで登山をしたくらいで、これとつて部活に打ち込んだとか、趣味に没頭したとかさういった記憶もない。ただ多くの友人に囲まれた日々の学校生活は楽しかった。

次は、大学時代である。私は「獣医師」という職を目指していたため、東京にあるなんとも田舎くさい名前の、日本獣医畜産大学(知らない間に日本獣医生命科学大学という名前に変わってしまったが…)というところに進学した。獣医師と

は「犬猫の医者」「動物病院の仕事」と思っていた私は獣医学科に進学すれば当然動物の診療という1つの道しかないと思っていた。が、私の前にまたいくつかの分岐路が立ち上がった。私に合った。実は獣医職とはそれだけでなく、われわれの食の安全を維持する「産業動物獣医師」つまり牛や豚、家禽の診療や動物の診療とはまったく関わりのない公衆衛生までもあることをはじめ知った。大学6年間で多くの選択肢を与えられたが、やはり私は「動物病院」での仕事を選んだ。

獣医師免許取得後は豊橋市内にある動物病院に勤務した。ここでは私のこれまで進もうとしていた道が大きく変わった。その時まで犬猫の診療がたくて突き進んできたのだが、勤務先の動物病院では犬猫だけではなく、ウサギ、フェレットをはじめ鳥類、爬虫類までも治療を希望する熱心な飼主が多く来院していた。来院する

すべての動物が家族としての存在であった。今思えばごく自然で当たり前のことであつたが、このときは計り知れない衝撃を受けた。これまで大学の実習で扱った牛や馬を除けば犬猫以外の動物はほとんど接したことがなかったし、まさかそんな動物が家族という位置にいるなんて思いもよらなかつた。そうした動物たちを見下していたのかもしれない。その数年間に会うことができた飼主や動物によって私の診療動物は果てしなく広がっていった。こうして私の仕事は犬猫をはじめ数グラムの哺乳動物から鳥類、爬虫類、両生類までとなった。

すべての動物に犬猫の水準の医療を与えられるようにと、現在は志都呂町に動物病院を開設計院長として日々の診療にあつている。

私の道はまだまだこれからも続いていく。その道はどんなものになるか、大きな変化を迎える

ことになるのかまったく想像もつかないが、これから出会う多くの人や経験によって切り開かれていくものである。今日のようにこれまでを振り返ってみたときに何かしら意味のある道になるようになればと願っている。

同窓生の皆さんへ

しばらく浜松から離れてきましたが10年ぶりに、この地へもどつて参りました。10代から20代にかけては人生の中で特に大きな変化のある時期ですね。皆様とも久しくお会いしておりませんが、どこかで見かけることがあると思います。そのときはぜひ声をかけてください。つい先日にも診察室で10年ぶりに偶然友人に会いました。

自分の進むべき道がわからずに
迷ってしまったとき、

暗闇の中で立ちすくんでしまったとき、
それは絶望ではなく自分と向き合うチャンス。

高42回卒
廣川 麻貴

今回、原稿を寄せるに当たり高校時代の自分に思いを馳せてみました。高校時代は宿題とテストと部活に明け暮れて、未来の自分について真剣に考えていたか自信がもてません。色々なことに興味がありすぎて、大学に進学しても迷ってはかりいた気がします。大学院を中退した時に確かに自分の中にあつたことは、「人と直接関わる仕事がしたい」とそれだけでした。そんな私は今、言語聴覚士(以下S.T)という資格を有して病院で働いています。

皆さんは「言語聴覚士」って何?と思われるのではないのでしょうか。S.Tは「スピーチセラピスト」の略で理学療法士や作業療法士といったセラピストの一種です。アメリカでは弁護士と同程度の社会的地位のあるS.Tですが、日本ではまだその存在すらあまり知られていないのが現状です。S.Tの扱う障害は言語機能障害や言語発達障害だけでなく摂食嚥下障害、聴覚障害、注意障害や記憶障害といった高次脳機能障害と多岐に亘ります。その活躍の場は医療機関の他、福祉、教育など幅広いのですが、S.Tの求人はまだまだ少なく特に教育分野ではS.Tが働くための法的な整備が不十分な状況が続いてい

ます。ですから、これからのS.Tは訓練効果の根拠を示し、その必要性を訴えつつ自ら職域を開拓していくという指名を背負っているのです。



廣川 麻貴(ひろかわ あき) 浜松西高42回卒
1971年生まれ
筑波大学第二学群生物学類卒業後、同大学大学院修士課程環境科学課を中退し、(株)和田塾を経て2007年日本聴能言語福祉学院に2年間通い2009年春、言語聴覚士の資格を取得
現在、聖隷浜松病院にて言語聴覚士として勤務

私がS.Tを知ったのは、塾講師をしていた時に出会った一人の少年がきっかけでした。その少年は自閉症の高校1年生でした。彼の病気を知らするために色々な資料に目を通し、何とか彼にわかりやすく教える方法はないかと模索する毎日でした。そんな時、ふとラジオからS.Tの仕事を紹介する番組が流れてきました。私はそのとき初めてS.Tという仕事を知り興味を持ちました。それから、とにかくがむしゃらにつき進んでいただけでした。そして今春、私は無事にS.Tの資格を得て聖隷浜松病院に就職し、主に成人の患者様に対し失語症や構音障害、摂食嚥下障害のリハビリを行っています。更に、その一方でリハビリの対象を拡大するための取り組みを続けています。今はまだ、未知の体験の連続で学ぶことも無限にあり、自分自身の経験や知識、技術の未熟さにくじけそうになったり自分に腹が立ったりの日々です。それでも、「目の前の人の役に立ちたい」という初心を忘れることのないよう自分に言い聞かせて目の前の「道」を辿ることが、将

同窓生の皆さんへ

自分の進むべき道がわからずに迷ってしまったとき、暗闇の中で立ちすくんでしまったとき、それは絶望ではなく自分と向き合うチャンスなのだと思います。求めれば必ず扉は開くのだと信じています。そして、その扉を開いてくれるのは他ならない自分自身だと思います。学生時代に沢山迷って人生の宝物を沢山見つけてください。





道

毎朝、出迎えてくれた「道」。
その「道」を登ったその場所で
僕らは青春を過ごした。
卒業してその「道」を
登ることはなくなったけど
まだなお続く「道」。
皆それぞれ行く「道」は違えど
一緒に過ごしたあの思い出は
輝いたままだ。

達観専心

素直に心に響くものから学び取り、
目標を絶えず掲げ、追求し実践すれば、
自然に視界が明確になっていく。

高46回卒

根岸 雅樹



根岸 雅樹(ねがしまさき) 浜松西高46回卒
1975年生まれ
英国Bath Spa University College 西欧文化・心理学部卒業後、
Bon・Chic入社。退社後、スイスに渡り柔道指導の傍ら
日本とヨーロッパの交流にも専心。
・International Culture Network (ICN) 代表
・スポーツセンター日本 Bern 柔道インストラクター
・ヘルン州柔道協会 コース・ジュニア コーチ
・スイス聴覚障害者スポーツ協会 柔道コーチ
(2009 Deaflympic 台北 スイス柔道コーチ)

浜西在学時、ただ時間が過ぎるのを待つだけの日々が多かった。青瓢箪で目標が定まっていなかった。そんな中、私が時を忘れて没頭してきたのが柔道でした。同期の経験者2名・初心者20名が入部し、先輩方を含めて40名以上の部員が毎日良い汗を流していました。

2002年よりスイスのベルンで生活を始め、柔道指導の傍ら2005年から毎年4月に日本に興味を持つスイス人学生一般を日本に連れて柔道や合気道といった武道を通して交流を継続しています。浜西柔道場での交流稽古の際、溝口紀子先生に技だけでなく心の指導を受けたスイスの少年少女たちの中には、現在ヨーロッパジュニア選手権や世界ジュニア選手権で活躍する選

手もあれば、スイス鉄道とJR技術提携の懸け橋となつて頑張っている者もいます。ますますこの交流の幅を更に広げられる様精進します。

2007年夏には、浜西柔道部の恩師であり先輩でもあられる清水度先生を団長とした浜松市柔道交流団(小学生6名・浜西高生1名)がベルンを訪問し、イギリスのバース柔道交流団とともに三國間で柔道という共通の道を歩んでいる若者同士、不思議な力を持ったコミュニケーション法を駆使しながら、それぞれの情熱を分かちあいました。

清水先生には浜西入学以来ずっとお世話になり、現在も人としての在り方を学んでいます。また、スイスに来て間もない頃、在スイス日本大使館大使を務められていた國松孝次元警視庁長官を國松大使の後輩ですとちゃっかり強引に訪問し、文化の重要性を説く貴重なアドバイスをいただきました。

私が中学2年の頃から父が小さな和菓子屋を扱う会社をはじめ、毎日夜遅くまで働いている両親の姿を見てると自然に手伝うようになりました。それはごく当然の流れであり、自然に家族の絆が深まっていく様な感覚が当時の自分には素直に嬉しかったのを覚えています。浜西を出て4年間の英国留学をさせてもらい、多くの人間に出会い、広い視野で社会勉強する多くの機会を与えられたことに今本当に感謝しています。

素直に心に響くものから少しでも学び取り、目標という人生の道標を絶えず掲げ、正しくそれを追求し実践すれば、苦勞を苦勞と感ずることなく自然に生活の視界が明確になっていく。独りし馴れ合いをつつしみ、たがいに道を照らす光を与えながらそれぞれの人生の真理を追求し進む。道とはそういうものだと思います。

私も柔道に求められる、純真な柔らかな外柔内剛の性質を社会に役立てる人間形成を目標として、常に真理の真つただ中に生活しているという自覚を持って社会貢献できる道を築いていく所存です。

同窓生の皆さんへ

ここにきて懐かしい仲間・先生方と連絡が取れたりして、縁というものに驚き、学び、感謝しています。みなさんも、暫くご無沙汰の仲間とコンタクトを取ってみたらどうですか? 良い刺激になりますよきっと。

友達は第二の自己であるってアリストテレスも言ったそうなんです。これからも、社会の一員として若さを保ちながら闊歩していきましょう。スイスに来られる際は、連絡ください。日本からの交流団も大歓迎です。

やはり道とは出来ているものではなく、
創っていくもの。
人との出会いに感謝しつつ自分自身を
信じてきた結果、今の自分がある。

高42回卒
近藤 理江

JAZZという音楽に初めて触れたのは、大学のピアノ練習棟でした。

高校時代、英語と音楽、どちらの「道」を選ぶか迷いつつ半ば勢いで音楽を選んだ私は、周りの皆が自宅で受験勉強に励んでいる頃、西高の音楽室の空き時間を調べてはグラランドピアノに向かっていました。試験曲のモーツァルトのほか、個人的に好きだったドビュッシーやサティ。今思えば広い部屋を一人で借り贅沢な時間を過ごしていたものです。

さて大学に入り、練習棟でいつものように弾いていると、隣から、それまで体感したことのないサウンドがきこえてきました(練習棟というのはいわばカラオケボックスのような造りで、4畳ほどの部屋がいくつも並び各部屋にアップライトピアノが1台ずつ置かれています)。その不思議な音に吸い込まれるようにして、私は隣の部屋のドアを叩きました。今でこそセキユリティもしっかりしているであろう大学の練習棟。当時は全く開放された空間だったため、近所に住むジャズピアニストが立ち寄り、何気なく弾いていたのです。それをたまたま耳にした私は、以来その音楽にはまっています。

その後いったんは一般企業に就職し仕事に打ち込む時期もありましたが、やがて出会ったのが、オルガンの元祖ともいうべき楽器「ハモンド」。この生の音を大阪で聴く機会に恵まれ、なぜか私は運命のようなものを感じてしまいました。聞けばその楽器は浜松の楽器メーカーがディーラーとなっているとの事！

さっそく工場へ見学に。そこから現在、演奏を職業とするまでに至ります。その過程でJAZZの本場ニューヨークとの繋がりも出来、これまで何度も行き来することになりました。

今思えば、私のたどった道は決めてまっすぐではなかった。でも、回り道をしながらここまでやってこられたのは、ポイントとしてつねに人との出会いがあり、それに感謝しつつ自分自身を信じてきた結果、いまの自分があると思っています。ありふれた言い方になるけれど、やはり道とは出来ているものではなく、創っていくもの。ハモンドオルガンの開発者ハモンドもともと時計職人で、自分の造った楽器が80年後の現在まで愛用されるとは思っていなかったかも？しかしその素晴らしい功績はサウンドを今後さらに継承するべく、私は弾き続けたいと

思っています。西高の音楽室から見た景色を、ときには思い出しながら。

同窓生の皆さんへ

ジャズのスタンダードに、
WHAT A DIFFERENCE
A DAY MADE(縁は異なるもの)
という美しい曲がありますが、まさに人の縁とはかけがえのないもの。一つひとつの出会いを大切にしていきたいですね。



近藤 理江(こんどうりえ) 浜松西高42回卒
1971年生まれ
★Rie(オルガニスト/ピアニスト)
幼少よりクラシックピアノを学ぶが、音大音楽科時代ジャズ・ポピュラーに目覚める。
卒業後、ハモンドオルガン及びピアノで本格的にライブ活動を始め様々なミュージシャンとセッションやツアーを重ねる。
またジャズの本場ニューヨークへは定期的に渡航し、巨匠Dr. ロニー・スミスに師事。
現在、岡山を拠点とし、老舗ジャズクラブであるBird、アベニュー等出演のほか、中国地方を中心に活動中。



先生は今



(英語)

須部宗生 先生

①特に、学校祭で39HRの皆さんが作ったジェッツコースターはけが人が出ないかと心配でした。校内での危険だとの声に対しては担任として「生徒の自主性が重要だ」と主張しました。しかし本音では「危ない」と言っても簡単に引き下がる生徒でもないと私は心中感じていたのです。それ程皆さんは自主的かつ強情でもあったのです。

②私は英語教員としての道を歩む一方、「辞典編纂の道」を二十数年間歩んできました。私が手がけた辞典は、『辞典編纂の道』を二十数冊用大辞典『研究社和英大辞典第5版』でいずれも日本最大規模でロングセラーです。最近では『KOD(研究社オンラインディクショナリー)』という非紙媒体辞典の製作をしています。辞典編纂は多大な労力と時間を要しますが、当分私の「辞典編纂の道」は続きます。

③静岡産業大学教授として英語を教えています。論文、書籍、教科書の製作や講演活動をしています。今年は文科省から科研費を受け、9月に研究代表として中国大連市の小学校英語教育の視察に出かけます。

④皆さんは今人生の最盛期にあるからこそ、最も悩み多き時期にもあると思います。仕事、家庭、子どもの教育等大変です。しかし大変な時期は永遠には続きません。今は若さで乗り切ってください。やがて静かに時が流れる時期が来ますよ。



① 42回卒生との足跡
③ 近況

② それぞれの道
④ 教え子たちへのメッセージ

卒業して、早いもので20年 当時の先生方は……。



(数学)

西田正夫 先生

①私が3年間持ち上がりで卒業式を迎えたクラスは、後にも先にも42回卒の理数科の2期生だけです。山の村で「3年間よろしくおねがいます。」と、互いに自己紹介していた諸君の顔が印象的でした。クラス目標「遅刻欠席の厳禁、提出物の期限厳守、清掃の徹底、学習の充実」をよく守り、団結力の強い、創造力も個性も豊かな42名でした。

②青空に白一直線に引いた飛行機雲のような道、起伏の激しい曲がりくねった道、ビルの谷間にあるコンクリートに囲まれた道、のどかな田園風景の中に溶け込んでいる田舎道……。道にはいろいろあるが、未だにどの道を見ても、その様な生き方に憧れる自分が自分の中にいるのを感じる。私もまだまだ先は長いので、憧れの道を更に、探してみたいと思っています。・・・「夢のあるところ道あり」を自分に言い聞かせながら。

③定年を迎えましたが、幸い、授業をする環境に恵まれて、現在も高校生と一緒にいます。しかし、自分の時間が増えたので、こちらでホームページを立ち上げて、今までやってきた数学をまとめて載せてみたいと思っています。これからホームページの勉強です。

④私は歳をとると、自分に都合の良いことだけを記憶していて、都合の悪いことは自然に薄れていくような傾向を感じています。そして、これが長生きのコツかもしれないとも思っています。皆さんは現在戦いの真っ最中ですが、皆さんも、できるだけ良い思い出を残し、嫌なことは忘れて、元気に活躍されることを期待しています。





(保健・体育)

柴田 保先生

①人生初のクラス担任になりました。初めてのクラスには、3年後どんな生徒に成長していくのか楽しみでした。その生徒が3年生になったとき、それぞれの部活動のキャプテンや主力選手になった生徒も多くいました。インターハイや国体で活躍する選手もいて、毎日毎日、入学からの3年後を楽しみにしていました。すばらしい生徒と出会え、文武両道の校風は進学実績だけでなく、部活動にも一生懸命取り組む生徒たちと過ごせた事は、私の宝物です。また色々な分野で現在活躍している卒業生が、今後どのような活躍をしていくのが、今が一番の楽しみです。

②26才で伝統の浜松西高校に転勤できたことは私にとって大変幸運なことでした。体育科の先生方はそれぞれの分野での専門で活躍され、しかも全国大会常連の指導者でした。選手育成の経験と教員としての指導力の乏しい私には、その先生方から多くのことを学ばせて頂きました。初任校から2校目のこの学校で授業や部活動がうまくいかなかったら教員を退職して別の道を進もうと考えていたので、自分の全てを西高校にかけようと思って過ごした9年間でした。

③今年度から母校に勤務することになりました。昭和55年に静岡県に採用され、採用当初から29年間水泳に関わっていることは幸せだと感謝しています。現在も水泳部の顧問をしています。平成3年の静岡インターハイや平成15年の静岡国体の強化に関わり、西高校の選手たちと9年間、インターハイや国体の選手を指導できたこと、その後16年間、浜松商業高校で担任や生徒課長をさせて頂き、さらに成長させて頂きました。これも西高の皆様のおかげですので、今はいずれも高校の教育に恩返しをしなくてはいけないと思っています。

④可能性のある未来に向けて失敗を恐れず、つども若者らしくチャレンジして欲しいと思います。「若いときの苦労は買ってでもしろ」が私の大学時代の指導教官の教えでした。積極的に実践して自分を成長させて頂きたいと思えます。そして、国内だけでなく海外でも活躍できる人材になって欲しいと思います。



(国語)

藤村明弘先生

①東京生活に区切りをつけて、古里に戻ってきた。遅めの就職で、27歳になる春だった。

就職採用試験に合格し、「学校の先生」として、生まれて初めてきちんと「給料」を貰って勤務した。目の前にいたのが、高校に入学したばかりの「浜松西高校42回生」だった。教員としての原点のような42回生。私の転勤後も色々な同窓会に何度も招待してくれ、その都度、私に元気を与えてくれた。改めて感謝申し上げる。

②42回生や45回生に対して、訳の分からない授業をして、自分でも正解が分からないテストを作って、生徒を半分からかって、半分生徒にからかわれて・・・。

以後二十数年。先日、夜な夜な熟考、殆ど何も変わっていないような気がしてきた。授業など、熱意のあつたあの頃の方が今よりマシだったような・・・。変化と言えば、元々心配だった「私の髪」は、涙ぐましい諸努力空しく、予想通り?の展開となってきたが・・・。

以上、私の歩んできた道でした。

③相変わらず「教員」やっています。浜松北高で。1年生のクラス担任。北高の5階のペランダから、よく西高が見えます。「懐かしいな」浜松の高校生の質も大きく変わり、こちらも加齢のために成人病の恐怖に戦き、晴れた青い空の下、西高を眺めながら「昔は良かったな」とつくづく思う。

④最近思うこと・・・。「世の中のたいいことは、我々が深刻に心配するほどではない」「何かとテクトーに転がってゆくものだ」と。それとかなり矛盾して最近思うこと・・・。「世の中のたいいことは、努力と根性で何とかなる」「迷うようなら実行あるべし」「行動しない後悔よりも行動した後悔の方がマシ」と。



部活の足跡

柔道部



- ① 飯田稔先生
- ② 「文武両道」
- ③ 飯田先生は、県柔道協会の役員もさ
れていたベテランの先生で、非常に
多忙な中、道場に來られた時には、
自ら稽古をつけて下さったりと大変
情熱的な先生でした。
- ④ 「はじめにやる時ははじめに」「楽し
ました。

むときは和気あいあいと」をモットーにメリハリをつけた練習を心掛けておりました。部員同士の結束が固く、大変よい雰囲気の部活だったのではないかと自負しております。ただひとつ心残りというか反省しているのは、同学年の溝口さんが当時既に世界の舞台で活躍をされていた中で、同じ部活の仲間として、それにふさわしい練習環境を整えてあげられなかったことです。（溝口さん、その節はごめんなさい！）

⑤ その晩は興奮して寝られなかったことを覚えています。

（高42回卒 松下嘉一）

- ① 当時の顧問の先生
- ③ 先生の思い出
- ⑤ 当時の戦績

- ② 合言葉、キャッチフレーズ
- ④ あの時（一番記憶に残っている場面）



バスケットボール部



① 大石功先生
 ② 「追求」
 ③ とにかく厳しくて怖かった…。これは練習や合宿での印象であるが、試合本番では常に選手を鼓舞し、我々を勝利に導いてくれた。そんな先生も昨年他界。ご恩返しもできないままに…。無念でならない。
 ④ あの時勝負に拘らなかつたら、我々の全国大会出場は叶わなかつた…。それはインターハイの静岡県予選。決勝リーグ1回戦の相手は宿命のライバル興誠高校。我々はここ1年間、このライバル校に負けたことがなかった。当然この試合も自信を持って望んだが、蓋を開けてみれば前半を終えて10点以上のビハインド。後

半になつてもなかなか思うように点差が縮まらない。正直みんな焦っていた。このまま負けてしまうのか…。しかし、我々は諦めなかつた。こんなところで負けていいのか。この2年半の時間を無駄にしたいのか。恐らく一人一人が色々な想いで戦っていたのだろう。この試合は結局1点差で勝利を掴み取ることができた。正直、後半どのようなドラマがあつて逆転したのかは覚えていない。ただ言えることは、「本当は全国大会に出場できたのに、この時はたまたま県予選で負けてしまった…。」そんな言い訳は誰にも通用しないということ。あの時、一人一人が本当に勝負に拘らなかつたら…、勝負を諦めてしまつていれば…、我々は生涯の思い出となる全国大会出場を勝ち取ることができなかっただろう。
 ⑤ 全国高等学校総合体育大会（インターハイ） 出場

(高42回卒 中塩佳秀)

主な部活動の成績報告①

平成20年度高等部

男子バスケットボール部
 県大会 ベスト8

女子バスケットボール部
 県大会 出場

男子テニス部
 県大会 2回戦

女子テニス部
 県大会

全国大会 シングルス出場

子選団体3位
 ダブルスベスト8

柔道部

県大会

男子団体戦
 女子個人戦

3回戦
 1回戦

ベスト8

弓道部

県大会

男子団体

25位



部活の足跡

野球部



- ① 有川謹司先生
特に無かったのですが、メンバーの心の中には「目指せ甲子園！」という共通の思いがあったと思います。
- ② 高見先生からも有川先生からも、野球に取り組む姿勢について厳しくご指導を頂きました。また、私自身としては「良い主将」とはどういうものかということを生先生からご指導頂き、リーダーとしての心構えなどを教えて頂きました。
- ③ 自分達の代の夏の大会は一回戦負け、しかもコールド負けという結果で大きいことはいえませんが、メンバー的には中学時代に全国大会出場者がいるなど、自分としては絶対に甲子園に行けると勝手に思い込んで

- ④ いました。
そんな中、選抜出場を目指して臨んだ市内秋季大会の三回戦、相手は興誠高校でした。今日も危なげなく勝てると思っていましたが、西高エースの制球が定まらず、あれよあれよと四回までに十一点を取られてしまいました。このまま五回表に西高が二点を取らなければコールド負け。五回の攻撃前に「こんなところでは終われない。」と激を飛ばしましたが早くも二死、あと一人という状況の中、ここから奇跡が起りました。六番バッターが二塁打を放つとそこから連打で二点を奪取。コールドを免れると一気に西高に流れが傾き、八回に同点とした後そのまま逆転し、終わってみれば十三対十一の大逆転勝利を収めました。その後、市内大会を優勝することができましたが、この一戦はチーム全員の「絶対に勝つ」という気持ちが一つになった試合だったと思います。
- ⑤ 秋季市内大会 優勝
夏季県大会 一回戦敗退
(高42回卒 影山浩二)

- ① 当時の顧問の先生
- ② 合言葉、キャッチフレーズ
- ③ 先生の思い出
- ④ あの時(一番記憶に残っている場面)
- ⑤ 当時の戦績





ボート部

① 田中高志先生

② 特になかったと思います。

③ 私たちが佐鳴湖で練習していると、岸から大きな声で田中先生が自転車に乗って、いろいろアドバイスしてくれました。そのアドバイスというのは、身振り・手振りだったのでよく覚えております。

④ 個人的な話ですが、国語が赤点ぎりぎりだった私は、昼休みに国語の先生だった田中先生、影山先生に呼ばれて、職員室でテスト勉強をさせられました。その成果もあり、次のテストでは80点を取れました。毎回試合の2週間前から始まる「シトレッケ」と言う練習がありました。語源は未だにわかりません。この練

習内容は、500mを20本程度全力で漕ぐというものでした。毎回タイムを取り、司令塔のコックスがみんなが手を抜かないようにいろいろな指示をだしながら行っていました。冬の練習は、佐鳴湖一周や筋トレでした。この佐鳴湖一周の練習の成果で冬の西高のマラソン大会では、皆上位に入っていましたし、1500m走も皆5分を切れていたような気がします。

⑤ 試合で一番記憶に残っているのが、1年生の時に佐鳴湖で行われた県大会で、スタート地点の各コースに設置された桶に1年生が2人ずつ乗り込み、スタート前の各艇を抑える手伝いをしたことです。不幸にも天気が悪く、皆、自分の桶に水が溜まり、沈むのを防ぐために、レースの合間に一生懸命水をかき出していたのを覚えております。

また、ボート部では、ほとんど上下関係がありませんでした。最初に入部したところ、先輩達がよく面白い話をしに来てくれたのを覚えております。艇も先輩後輩混ざっていることも多く、いい雰囲気の部活でした。

3年インターハイ県予選
男子シエルフォア2位(東海大会出場)
男子ナツクル2位
男子シングルスカル2位(東海大会出場)

(高42回卒 花嶋直之)



陸上部

全国大会

男子4000Mリレー準決勝

男子1600Mリレー準決勝

女子4000Mハードル予選

水泳部

県大会

女子2000M個人メドレー決勝

野球部

県大会

4回戦

サッカー

県大会

3回戦

ボート部

国体

男子ダブルスカル出場

男子舵手つきクォドルプル出場

東海大会

女子ダブルスカル出場

親子三代
西山台で学ぶ



左：河住圭吾さん (高12回卒) 中：河住圭紀さん (西高中等部1年) 右：河住公介さん (高38回卒)

2009年4月西高中等部に圭紀さんが入学した事により、河住家は祖父の圭吾さん(高12卒)父の公介さん(高38卒)と親子三代にわたって西高生となりました。又、圭吾さんの父から続く(有)かねたは公介さんで三代目、となります。今回は、西高そして事業に対する親子三代それぞれの思いをうかがってきました。

記者 親子3代西高生ということで、それぞれ西高を選んだ理由、行こうと思っ
たきっかけを教えてください。まずは圭
吾さんからお願います。

圭吾さん 選んだ理由ねえ。本来は自分
の兄が北高でね、自分も必然的に北高に
行くものと思っていましたよ。記事にな
らないかもしれないが、北高に行けない
から西高という程度しかなくてね(笑)。
記者 入学当時は西高へのこだわりはそ
んなに無かったですね。

圭吾さん 西高に在学している時よりも
卒業してから、特に社会に出てから西高
というのはすごいなあ、と感じるようにな
って、気持ちの中で西高の存在が大き
くなっていますね。

西高というのは先輩から後輩までずっと
繋がっていて、何かあると先輩、後輩の
垣根は無しでひとつにまとまる、そんな
団結力のあるところが好きですね。本当
に今は西高を卒業して良かったなあと思
っていますよ。

記者 続いて公介さんが西高を圭紀さ
んが西高中等部をそれぞれ選んだ理由、
行こうと思ったきっかけを教えてください。

公介さん 子供の頃から親父が家で西高
の校歌や応援歌を歌っているのを聞いて、
知らないうちに覚えちゃってね。そ

れで受験を考える年になった時に、やつ
ぱり親父に並びたい、親父を越えたいと
いう気持ちがあったのですよ。必死に勉
強して絶対に親父と並びたいという気持
ちだったですね。

圭吾さん 2つあって、まず1つは父も
祖父も西高ということで、僕も西高に入
りたいと思いました。もう1つは西高中
等部のバスケットが強く、自分もバスケ
ットをやっていたのでそこでやりたいと思
いました。

父と同じなのですが、父を越えたいと思
ったのと、バスケットが強くて入ったとい
うのが大きいです。

記者 圭吾さんは公介さんと圭紀さん
を西高へ進学させたいという思いはありま
したか？

圭吾さん 息子の時はあんまり無理もさ
せたくなくて、受けさせて良いのか悪い
のか悩みましたが、本人が西高に行くとい
う強い気持ちがあったからね。孫の時
には心配というより、可哀相だったよ。

自分の小学校時代を振り返ると、ほとん
ど勉強なんかした覚えがないのに、この
子は勉強、勉強で・・・ただただ、可
哀相だったですね。でも、受かったとい
う報告を受けた時には飛び上がるほどうれ
しかったですよ。

記者 公介さんは圭紀さんを西高へ進学
させたいという思いはありましたか？

公介さん 自分も西高生同士の絆、結
束力の強いところが大好きですからね。そ
れと本人は将来、建築家になりたいとい
う夢があって、それを叶えるには、西高
のような進学校にあって、そこからより
高いレベルの教育を受けられるところ
に行きたほうが良いのではないかな、と
思っていました。

記者 学生当時の事を伺いたいので
すが、圭吾さんが西高時代に打ち込んだこ
とを教えてください。

圭吾さん 私は軽音楽部でトロンボーン
をやっていますね。当時はデイクシ
ーランドジャズについて、ジャズの一
番古い基になったスタイルでね、トロン
ボーンが中心になって、結構かっこよく
やるんですよ。それでそれに憧れてね
(笑)。

後は洋画が好きで、テスト週間など学校
が半日で終わると東洋劇場へ直行して
ましたよ(笑)。

記者 軽音楽部での思い出があったら教
えて下さい。

圭吾さん そうだなあ。私が3年の時に
は西高にまだブラスバンド部が無くて
ね。我々軽音楽部のメンバー5、6人が
何とか校歌とマーチを練習してね、ブラ
スバンド部として夏の大会の草薙球場へ

応援に行っただけです。それがね、たった5〜6人じゃ音も何もないし、皆あがってしまっただけ曲にならないで終わってしまった、そういう思い出がありますね。

記者 そうすると、その当時の軽音楽部のメンバーがブラスバンド部の基なのでしようか？

圭吾さん その後、どのようにブラスバンド部ができていったかわからないですが、自分としてはそうではないかと思っていますね。

記者 次に公介さんにお聞きしますが、学生時代に打ち込んだことや思い出はありますか？

公介さん 子供の前では何なのですが、とにかくディスコ通いでしたね。後は、家が街中にあつたものだから溜まり場になっていてね。毎日9〜10人ぐらいが夜まで遊んでいたなあ。

それから僕らの時には数学のオリジジというのがある。あれは0点ばっかり。逆に世界史では大体トップだったんですけどね。数学はゼロ、世界史はトップ、この両極端が自分の中では好きでした。

記者 圭紀さんに質問ですが、西高に就いてイメージや感じていることがあつたら教えてください。

圭紀さん 教科ごとに変わる移動教室があつて大変そうです。あとテスト期間が長くて中等部は2日間だけ高校は4日間。教科も多いらしいので大変そうです。もうひとつ、部活を楽しそうにやっているといます。

公介さん 楽しそうではないのか部活って？ 苦しいそうでは？

圭紀さん 練習をやっているときは苦しうけど、仲間同士で励ましあ

ながらやっているのを見るといいなあと思うよ。

記者 圭紀さんは西高に入ってから目標はありますか？

圭紀さん 建築家に必要な数学などの基礎を固めて志望大学に合格できるように勉強を頑張ります。

記者 お二人が今後、圭紀さんに期待していることを教えてください。

圭吾さん 西高での生活をあまり苦しい思い出ではなくて楽しい思い出にしたいなあと思うね。今見ていると、勉強、勉強で追われちゃって……。楽しい思い出を残すような6年間であつて欲しいです。

公介さん 中高一貫だからできること。得意な運動も勉強も、より深く掘り下げていく時間もあるだろうし、苦手なものも6年間に渡って克服するということができると思うので、中高一貫のメリットを生かして過ごして欲しいですね。後は、自分のようにならないように、遊びはほどほどに。

記者 圭紀さんに質問ですが自分の子供ができたなら、西高に入学させたいと思いますか？

圭紀さん 考えたこともないけど……。勉強ができる子にはなつて欲しいです。西中や西高じゃなくても、同じように勉強を頑張れたり、その他にもメリツトがあるような学校だつたら良いと思います。

記者 お二人は親子4代を期待しますか？

公介さん まあ、偶然そうなればうれしいよね。

圭吾さん 俺はその頃にはもういないかもしれないしなあ(笑)。

校へ期待する事があつたら教えてください。

公介さん

高生同士の団結力、母校愛を忘れないで引き継いで行つて欲しいですね。

圭吾さん 今の中高一貫教育は試験的にやっていると聞きましたけど、とにかくやり始めた以上は、この制度を成功させるように諸先生方には頑張ってもらいたいと思います。そして優れた学校になるように、優れた生徒が成長していくように期待しています。

記者 今度は事業の話に移らせていただきます。圭吾さんが代表取締役をされておられる有限会社かねたは公介さんで3代目ということになるとのことですが、代々、継承してきたものや新しくしてきたことなどありましたら教えてください。

圭吾さん 継承してきたことといえば、とにかく固い商売をすることですかね。

公介さん そうですね。祖父も、親父も、私も糸編、つまり繊維に関するものを商売としてきましたね。ただ、やっていることが違つて、祖父は繊維の市場、親父は繊維の間屋と小売を行いました。取り扱う商品も祖父は呉服を扱い、親父は途中から洋服を扱うようにしましたね。私

になつて親父がやってきたことを引き継いではいませんが、インターネット販売の導入や不動産を扱うようにしました。

圭吾さん そう。息子がいうように、それぞれ糸編の内容が違うのですが、衣類を販売することには変わりなくやってきました。

記者 伝統ある糸編を継承しつつ、時代に即したものを取り入れながらということでしょうか？

圭吾さん 私も最初は呉服問屋をやつていましたが、呉服が斜陽になりかけた時に婦人服の小売りへと少しづつシフトさせていきました。それから数年後、沢山あつた呉服問屋が皆廃業だの倒産だの、どんどん淘汰されていきましたよ。息子も10年前、今後への危機感から、ITを中心とした販売に切り替えましてね。リサイクル着物を買集め、それを欲しい方に安く提供するという、中古着物の販売を始めたのです。色々時代に合わせて、それまでどちらかというと先取り先取りでやつてきているので何とか細々ながらも現在があるのかなあと思っています。

記者 今日は当時の懐かしい話、親子の愛情や西高への熱い思いをたくさんお聞かせいただき、ありがとうございます。

企業プロフィール

会社名 / 有限会社かねた
所在地 / 〒430-0928 静岡県浜松市中区板屋町 102-16
TEL / 053-454-3660
FAX / 053-454-3662
会社設立 / 1926年(大正15年)
役員 / 代表取締役 河住圭吾

幹事会一年の歩み



幹事会後記

実行委員(高42回卒)編集室より

代表幹事(安間)は本誌5ページにて「ご挨拶」しています。

副代表幹事
加藤喜彦



新春の集い、かろうい、面倒なことには顔を突っ込まないように、静かに目立たないように生きてきたつもりでしたが、残念ごとで捕まるとは、でもね、実際やってみると、やっぱり面倒、いやいや、同級生とかかなり楽しくてきました。みんなありがと。またこの会を支え下さっている同窓生の皆様にも心から感謝いたします。

副代表幹事
小笠原徳明



在学時は部活動のため文化祭にも研修旅行にも参加できず、思い出も交友関係もすべて部活中心だった高校生活。そんなミニマムな世界にいた自分が副代表幹事などという不安から始まった幹事会でした。しかし、幹事会を通して信頼できる(？)交友関係を築くことができたことは、今後の自分に新たな道を示してくれそうです。

副代表幹事
福本貴光



とくに悔悔する気持ちはないが、こうして振り返ってみると、直接的にしろ間接的にしろ迷惑かけた皆さんへ、お返しする機会をいただいたのかと思ってたり。でも、結局昔のように馬鹿話をしながら「じゃ、頼むわ」なんて丸投げするのはかわつてないな。そんな風にして出来上がった新春の集いから、幹事会の緩さや複雑さなんかを感じてくれたらうれしい。

事務局

東山亜希
(旧姓:中西)



約20年ぶりの西高。変わらない東坂がそこにある感動から早一年。毎週水曜の夜、笑いの絶えない同窓会館での作業、旧友との久しぶりの再会。つきあいがなかった同級生との交流。幹事会を通じて、こんな風に人と繋がっていきけるなんて最初は思ってもみませんでした。清口世代の皆さん、つぎは還暦で。本当にお疲れさまでした！

事務局

平野亜紀江
(旧姓:内山)



始まりは「曳馬寿司。お寿司とお酒につられ、買った吉備団子の恩に、ちよっとお供を」と参加するうちに、うっかり楽しくなって、遂には同窓会アディクトに。私にとって「新春の集い」は、西高同窓会がくれたキラキラ光る人生のギフト。愚痴も反論もすべて受け入れてくれた仲間と関わってくれたすべての方に感謝をこめて……

広告部

宮城哲



経済に大打撃、歴史的な政権交代とハチャメチャな時代にもかかわらず、多くの企業さま、西高OBの皆さまに当集いに協力いただいたこと、厚く御礼申し上げます。当部の活動を通じて、各業界での西高OBのパワフルな活躍を知ることができ、自らの励みにもなりました。10年が皆さんにとって良い年になりますように、今年も張り切ってまいりますよ！

広告部

鈴木孝直



全く自分とは関係ないと思っていた「新春の集い」。一番関係なさそうな副代表福本が「福もどくに熱く語っているのを見て冗談を言っているのか」と思った。からかったら本気で怒っていたのが昨日のよう。毎週水曜、妻に仕事と嘘をついて10時過ぎまで同窓会館で働いたが、もうすぐ終わりと思うと少し寂しい。

チケット部

今田剛



2008年秋に一本の電話。チケット部をダブルついでやるよ！というお誘いが心地よくOKの即答。今思えば内容も聞かず、疑問も感じず「頼まれ事は頼られ響のポリシーでスクリーンしました。結果、旧友との再会や先輩方や後輩との新しい出会いなど、いい思い出ばかりです。この一年は間違いなく人生の宝物になると確信しています。

企画部

太田正義



HPやブログ、恩師訪問など、誰も頼んでないことばかりに力を注いできた僕を、放置してくれたみなさんにまずは感謝したい。ありがと。よくわからないけどやっていた方が良さそうなので、この集いの中には「確実」にある。そう、匂いを嗅ぎつけて集まってきた同級生が、これだけいるって事実にも驚かされた一年でした。

記念誌部

石山鉄也



まず、記念誌作成にご尽力、ご協力いただいた皆様にお礼を申し上げます。自分が、記念誌作成に携わるなんて夢にも思っていませんでした。一年は瞬く間に過ぎましたが、新しい人間関係と多くの思い出が残りました。最後に記念誌部のみんなに感謝します。

デザイン担当

山本寿枝
(旧姓:岡田)



曳馬寿司のお礼にと、提案したチケット・チラシデザインをちよっと褒められずっかり有頂天に。記念誌まで手をだし、口をだし、でも力の無さに落ち込みながらも、周りのフォローに助けられ、皆大人になったなうって改めて感動した日々。暖かい友情を久々に感じた貴重な一年。この先の人生とても大切な思い出になること間違いありません。

会計部

鈴木啓支



地元金融機関に勤務していることがきっかけで会計部として活動させて頂きました。100年ほど一度と言われる不況の中で運営資金が集まるかわからないけどやっていた方が良さそうなので、この集いの中には「確実」にある。そう、匂いを嗅ぎつけて集まってきた同級生が、これだけいるって事実にも驚かされた一年でした。

本記念誌の企画・取材・制作にあたっては、多数の同級生、その他関係諸氏のご協力を賜りました。この場を借りてお礼申し上げます。

- 代表幹事: 安間隆弘
- 副代表幹事: 加藤喜彦・福本貴光・小笠原徳明
- 事務局: 平野(内山)亜紀江・中野(後藤)千晴
東山(中西)亜希・相羽まゆ子・飯田ゆう子
下飯恭子・水嶋(松本)明子
- 企画部: 太田正義・大塚勇一・松下嘉一・三浦雅史・斉藤政史
溝口紀子・土屋正宏・石塚雅人・鈴木(藤田)晶子・山下益弘
- 広告部: 宮城哲・鈴木孝直・大場誠一郎・太田健・松本剛史
石原淳生・河合国輝・白柳洋介・藤野博文
井上智明・草川昌輝・伊奈見輔子
日内地玄造・小林昇正・稲勝清一郎
大石達也・太田剛行・佐野憲・服部大悟
- チケット部: 高見剛史・今田剛・石橋薫
- 会計部: 鈴木啓支・飯田雅之
- 記念誌部: 石山鉄也・影山浩二・青野加奈子
- デザイン担当: 山本(岡田)寿枝
- クラス幹事: 弓場千也・村井謙吾・杉本千典・角川正直・山田義之
小田木敬昌・桑原豊一・湊健一郎・佐藤雅彦・百合山浩寿

印刷 東洋印刷株式会社(担当:高37回卒 鈴木健一)
発行 浜松西高等学校第42回卒同窓会幹事会

(第3種郵便物認可)

浜松市は、全国的に活躍する芸術家を顕彰する本年度の「浜松ゆかりの芸術家」に、フラメンコ舞踏家の大塚友美さん(45)を選んだ。3月16日に市役所で顕彰式がある。(浅井俊典)

08年度 浜松ゆかりの芸術家



浜松市生まれの大塚友美さんは人野中、浜松西高を卒業後、青山学院さん(浜松市提供)

大塚友美さん(フラメンコ舞踏家)選出

浜松まつり融合の舞台や後進の指導

3月16日に顕彰式

浜松ゆかりの芸術家に選ばれた大塚友美さん(浜松市提供)

「浜松ゆかりの芸術家」は、市出身者や市内に通学、勤務したとのある芸術家をたえよつと、九四年度に創設した。これまで音楽や演劇、映画などの分野で功績のあった十三人が選ばれている。

高34回卒

大塚友美さんが2008年浜松ゆかりの芸術家として顕彰されました。

浜松市は2009年1月28日、2008年度の浜松ゆかりの芸術家顕彰の受賞者に、フラメンコ舞踊家の大塚友美さんを選出したと発表しました。同年3月16日に、市役所にて顕彰式が行われました。大塚さんは浜松西校、青山学院女子短大を卒業後、スペインへの留学を経て、1991年には日本フラメンコ協会第一回新人公演において最高賞を受賞しました。2000年から浜松市に拠点を移し精力的に公演活動を行い、後進の指導にも力を注いでいます。「浜松ゆかりの芸術家」は94年度に創設され、これまで音楽や演劇、映画などの分野で功績選ばれています。のあった23人が

新人公演で最高の奨励賞を受賞した。東京を中心に全国で公演をした後、二〇〇〇年に浜松市に戻り、浜松まつりとフラメンコの融合を図った舞台をつくりあげたり、後進の指導にあたりたりしている。

顕彰公演のお知らせ

「大塚友美フラメンコリサイタル」 ～祭練りを迎えて～

日時:2010年3月20日(土)18:30開演
場所:アクトシティ浜松 中ホール
入場料:1,500円 チケットぴあにて販売
出演者:踊り=大塚友美、伊集院史朗、
フラメンコスタジオアルサイトマ
ギター=鈴木尚、石井奏碧
唄 =石塚隆充、阿部真
<http://www1.odn.ne.jp/arsaytoma>





大塚友美フラメンコリサイタル

祭練りを迎えて

2010.3.20 (sat)

open 18:00 | start 18:30

会場：アクトシティ浜松 中ホール

出演者 踊り：大塚友美、伊集院史朗、フラメンコスタジオアルサイトマ ギター：鈴木 尚、石井奏碧 歌：石塚隆充、阿部 真 友情出演：富塚西弥生組、早出町ラッパ隊



SHIRO Ijuin



TAKASHI Suzuki



KANAO Ishii



TAKAMITSU Ishizuka



MAKOTO Abe

入場料 全席指定 1,500円 (当日券2,000円) チケット販売：1月15日(金)発売開始 取り扱い：電子チケットぴあ TEL:0570-02-9999 (Pコード：400-853)
アクトシティ浜松チケットセンター、選鉄百貨店プレイガイド等のチケットぴあスポット、ファミリーマート、サークルK、サンクスでも直接お買い求めいただけます。

お問い合わせ 浜松市役所文化政策課 TEL053-457-2417 bunka@city.hamamatsu.shizuoka.jp

《6歳未満の方の入場はご遠慮ください》

主催：浜松ゆかりの芸術家 大塚友美 顕彰事業実行委員会 (浜松市、大塚友美) 後援：(財)浜松市文化振興財団、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、K-MIX、FM Haro!、ケーブル・ウィンディ